

大井町立相和小学校 学校通信

相 そとわ通信 3月号

《発行日》 令和4年3月17日
《発行者》 露木 光人

《学校教育目標》 豊かな心を持ち 自ら考え たくましく生きる子の育成
～学び合い 高め合う なかまづくり～

相和小の伝統を受け継ぎます！ ～6年生を送る会～【2月25日】



年度末が近づいた2月25日に、「6年生を送る会」が実施されました。当初の計画からいろいろと変更があり、保護者の皆様についても制限をさせていただいたところ、ご理解くださり感謝いたします。

さて、今年度赴任した私にとっては、すべての行事等が初見となりますが、この送る会もアットホームですてきな行事となりました。5年生をはじめとした在校生は、これまでの学びをいかして、卒業を迎える6年生に感謝の気持ちを伝え、6年生は、次年度以降の相和小学校のことを考え、自分たちの思いを堂々と発していました。この会を通して、改めて在校生は、本校の伝統を確実に受け継ぎました。また、相和小の宝を見つけることができた一日でした。



卒業証書授与式に向けて

今月に入り、6年生をはじめ子どもたちは、23日の卒業証書授与式に向けて式学習を始めました。今年度も参加する児童は3年生以上と限定になりますが、礼儀作法等これまでに授業や日常生活の中で培ってきたことを確認しながら進めています。式は、年間行事の中でも最も重要なものなので、思いを込めて取り組みます。

学校運営協議会（第3回）開催【2月15日】

3回目の学校運営協議会が開催されました。今年度から発足した本協議会では、学校教育目標等の方針を承認していただく場となっています。この会において、令和4年度の学校経営案について提案させていただき、承認をいただきました。具体的内容については、4月以降の学校通信においてお伝えいたします。

「子育てアラカルト⑨ ～心に扉があるとすると（後編）～」

令和3年度もうすぐ終わりを迎える時期になり、4月時の各クラスの集合写真を見直しました。子どもですから、すべてが右肩上がりに順調に成長してきたわけではありません。しかしながら、本校の子どもたちのすばらしいところは、教職員に指導されて自己を振り返る回数よりも、自ら、または仲間と関わる中で自己への気づきを意識している回数が多いことです。これは相和小の子どもたちの特長の一つです。

さて、ここからは『ケーキの切れない非行少年たち 宮口幸治 著(新潮新書)』からの引用です。



『子どもの心に扉があるとすれば、その取手は内側にしかついていない』。まさにその通りだと思います。子どもの心の扉を開くには、子ども自身がハッとする気づきの体験が最も大切であり、我々大人の役割は、説教や叱責などによって無理やり扉を開けさせるのではなく、子ども自身にできるだけ多くの気づきの場を提供することなのです。」

子どもたちは、そもそも学びの主体者で、興味・関心があれば、知識や技能を次々と身に付けていきます。大人がそのような環境づくりをするとともに、「聴く」と「待つ」の心の余裕がほしいところです。

学びの様子をお届けします ～質の高い授業の創造～（1～3年生編）



先月に引き続き、学びの様子をお届けします。今回は、1～3年生とそうわ学級ですが、そうわ学級については、また別の機会にお伝えさせていただきます。

下級生は、他者とのかわり方がまだ十分ではない面もありますが、自分の考えをもち、発信しようとする姿勢はだいが育ってきました。今後がますます楽しみな子どもたちです。

1年生【2月14日（月）1校時 算数「たし算とひき算」】

日頃から、パワーあふれる1年生の7名は、自分の考えを言いたくてうずうずしています。

今回は、「前から○番目～」や「後ろに○人」などの言葉から、場面によってたし算やひき算をどう活用していくかという授業で、映像資料やブロックなどの半具体物を用いて説明していました。この1年生は、昨年の間に他学年の授業を見る機会を設け、高学年の「伝える」姿を目の当たりにし、自分たちも取り入れた経緯があります。もちろん、まだまだ発展途上ですが、相手を意識した発言が多くなりました。ランドセルの黄色いカバーも、もう少しではずれる時期になり、2年生になるのだなあと成長をしみじみと感じます。



2年生【2月8日（火）2校時 国語「楽しかったよ 2年生」】



2年生は、この1年の学校生活のまとめを振り返る学びを行っていました。タブレットを用いてこれまでの写真を見直し、その時の感情を呼び起こしたうえで、作文を書いていた。2年生に限らず、最近は「書く」ということを苦手としている子どもが以前より多くなったと感じます。読書感想文等を、以前より書く機会が少なくなってきたことも一因かもしれません。この日の2年生は、視覚的な支援もあり、どんどん書き進めている子が多くいました。また、左の写真になるように、言葉遣いや漢字が正しく使われているかを自ら確認していました。

「書く」力については、次年度の本校の課題の一つとして、全教育活動をととして伸張できるよう手立てをとっていきたいと考えているところです。

3年生【2月7日（月）2校時 社会「わたしたちのまちの歩み」】

3年生は、在籍が5名のみの少数精鋭ですが、授業中の発言がとても多く、豊かな発想が持ち味です。3年生の社会科は、身近な題材を扱うことが多く、知っているようで実は知らない「大井町の再発見」が学びの中心となります。今回の授業では、洗濯板を使って、実際に昔の生活を体験することをおして、学びの見通しをもつ時間でした。実際にたらいや洗濯板、床が濡れないようにブルーシートを準備するなど、事前の準備には時間がかかるのですが、子どもたちが自ら考え、知的好奇心や知的探究心が高まるためならば、あらゆる可能性を探るのが教師です。この時間を経て、子どもたちからは多くの発見や疑問が湧き出てきて、学びの活力が生まれました。

授業力向上は、教師の最大のテーマであり、よりよい授業になるよう職員間で切磋琢磨していることが感じ取れる授業でした。



～ 学校支援ボランティアの方々に支えられ… ～

今号をもって、一年間の学校通信の発行を無事終えることができました。内容の充実については、まだまだ課題が残りますが、ご一読いただき感謝いたします。本当にありがとうございました。この一年も新型コロナウイルス感染症対策に翻弄された感がありますが、児童や保護者の皆様はもちろんのこと、地域の方々の諸活動へのご理解とご協力があったからこそ今だと感じます。なお、お世話になったボランティアの方々の写真を校内掲示により紹介していますので、来校の際はぜひご覧ください。

